

「居るのはつらいよ ケアとセラピーについての覚書」 参考メモ

第1章

- ・ハカセは沖縄の精神科クリニック（デイケア）に就職する決断をする



ケアじゃなくて、心の深層に触れるセラピーをしたい。

第2章

- ・新メンバーのジュンコさんのセラピーに失敗する
- ・「デイケア」は「いる」のがつらい人の集まっているところであり、自分の仕事は「とりあえず座っていること」すなわち「一緒にいる」ということだったと、ハカセは気づく
- ・「いる」と「する」について考える



第3章

- ・メンバーのユリさんが調子を崩し不安定になる。ハカセは、体に触れることに逡巡し、ユリさんとリュウジさんの諍いに割って入ることができない
- ・ハカセ、「体に触れる」行為、「心と体」について考える

第4章

- ・メンバーの送迎や外出の運転業務がスタッフの仕事となる
- ・ハカセは、自身の運転業務という素人仕事をきっかけに、依存労働について考える。
- ・ケア混じりのセラピーを行うようになる



デイケアの主要スタッフ

ハカセ（著者） 愛称はトンちゃん 心理士
タカエス部長 看護師 ケアの達人
ダイさん 看護師 デイケアの司令塔 野球が大好き
シンイチさん 看護師 デイケアの実行部隊
ヒガミサ 医療事務ガールズの一人
オツボネ看護師ケイコ課長

デイケアのメンバー（利用者）

ヌシ（プロローグ） ユウジロウさん（第7章）
ジュンコさん（第2章） トモカさん（第8章）
ユリさん（第3章） ヤスオさん（最終章）
タマキさん（第4章）
ハエバルくん（第5章）
リュウジさん（第6章）

幕間口上 時間についての覚書

セラピー
時間がうまく流れるように手伝う



デイケア
時間が円環的に流れる



第5章

・メンバーのハエバルくんは何か脅かされて退屈できなかったが、遊びを媒介にデイケアに「いる」ことができるようになった



・デイケアの治療（遊び、退屈、時間）について考察する

第6章



・リュウジさん、事件（恋）を乗り越える

・ハカセはデイケアにおける「変わらない」について考える

・看護師のダイさんがデイケアを去る

第7章

・疲れている金曜日、メンバーのユウジロウさんのもたらした内輪ネタの笑いにデイケアの皆が癒される

・ハカセ、「ケア」について考える



第8章

・タカエス部長とシンイチさんがデイケアを去る

・ハカセは二人の辞め方を通して、ケアとセラピー、喪失との向き合い方について考える



幕間口上、ふたたび ケアとセラピーについての覚書

ケアとは傷つけないこと

ニーズを満たし、支え、依存を引き受ける。そうすることで、安全を書く押し、生存を可能にする。平衡を取り戻し、日常を支える

セラピーとは傷つきに向き合うこと

モーズの変更のために、介入し、自立を目指す。すると、人は非日常の中で葛藤し、そして成長する

最終章

・ハカセ、デイケアを去る。

・アジールがアサイラムへと頹落することについて考える

